

保育北九州

平成24年10月1日
発行 北九州市保育所連盟
〒805-0019 北九州市八幡東区
中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話 (093)661-2153 番
発行人 平 沢 茂
編集人 日 野 真 人

2012169



〈写真提供 門司 支部〉

この葉っぱで 何に
変身しようかなあ……

表紙	1
視点・保育まつりを終えて	2～3
二人三脚	4～5
研修報告	6～7
雑感・編集後記	8

子どものための 保育施策を

視 点

「最善」という語を辞書でひいてみた。「一番よいこと」とある。因みに「利益」は「ためになること」「こんな解り切ったことを改めて確認したのは、乳幼児期の子どもに関する法・条約・政党のマニフェストにも必ず掲げられているのに、その現実、子どもにとって「いちばんためになる施策」が果たして実行されているのだろうかという疑問からである。

ここ十数年、組上にあがりながら、子どもの最善の利益という立場から躊躇されていた二十時までの延長保育を二六年度から掘点的に実施するという。

国を挙げて「生きる力」の基盤を培う食育を掲げている時に、家族団欒唯一のタベの食卓を奪うことになるのを憂うのである。

国連の子どもの権利委員会が採択した「乳幼児期における子どもの権利の実施」というペーパーに述べられた「人生の出発期である最初の数年間は、乳幼児の身体的及び精神的健康、情緒的安定、文化的及び個人的アイデンティティならびに諸能力発達の基盤である。」をどう捉えているのだろうか。

紙面の都合で飛躍的すぎることを重々承知しながら、昨今のいじめ（学校のみならず会社等でも）の遠因に、時間と心のゆとりを失くし、人間の根っここの育つ時期に心

「保育まつりを終えて」

記念事業実行委員会

企画部部长 山 本 文 雄

梅雨明けの待ち遠しい中、お天気に恵まれ、去る六月三十日（土曜日）十二時より北九州メデアドームにて、北九州市保育所連盟五十周年記念の保育まつりが、北九州市制五十周年記念ブレ事業と合わせて盛大に開催されました。

報道では、六千人近くの市民の皆様はじめ、保育所通園の子どもたち、又そのご家族の皆さんの参加をいただき、盛会裡に事故もなく無事に終了することができましたことを心より厚くお礼申し上げます。

光沢寺第二保育園の園児さんによるオーブニングでは、真剣な眼差しで力強く太鼓を打つ子どもたちの姿とその太鼓の音色が、メデアドームの広い会場内に響き渡り、これからの未来を切り開く大きな輝きと勇気を湧き起こさせてくれました。

北九州市保育士会会長北野久美先生の元氣な発声で開会が宣言され、北九州市保育所連盟会長平沢茂先生の感謝・感謝の挨拶に続き、北九州市長北橋健治様、北九州市議会議長佐々木健五様より祝辞を頂きました。特に今年度は、毎年保育所連盟各区の所（園）長はじめ、職員、保護者の皆様より寄付していただいている象のサリーちゃん募金を、会場の皆様の前で、到津の森公園園長長岩野俊郎様に直接贈呈できたことはとても意義深いもの

がありました。公務ご多用の中、北九州市子ども家庭局局長窪田秀樹様も来場していただき、本当にありがたく、来賓の方々にはその後会場内を回って頂きました。受付、案内、接待の先生方の笑顔と心遣いに、ご来賓の方々をはじめ来場の方々は大変な喜びでした。

その後の緊急アピールでは、ステージに役員一同が並び、会場の皆様に保育界を取り巻く国の動き、新保育システムの問題を訴えました。子どもたちの明るい未来のために、今私たちがなすべきこと、考えなければならぬこと、これからの危機感などをお話しさせていただきました、賛同の拍手に包まれました。

佐藤ひろみちお兄さんのステージでは、テレビと同じ笑顔の登場に、子どもたちだけでなく、お母さん方からも歓声がとび、親子ふれ合いの体操や踊りを中心に楽しい時間が持てました。ロケットくれよんさんは明るく楽しい歌声のせて、子どもたちに表現することの楽しさと喜び、笑顔を広げてくれました。

各コーナーでは、それぞれに工夫をこらした遊びに喜びいっぱいでした。特に今回の保育まつりでは、東日本大震災の復興支援の絆コーナーを設け、復興パネルや義捐金箱を展示したり、現地のお母さんたち手作りのクッ



キングたわしや子供用エプロンの販売もあり、北野保育士会会長さんと交流のある被災地、又北九州市との友好都市釜石市の復興支援に各々寄付させて頂きましたが、まだ今後も継続的な復興支援が必要であることを実感いたしました。

企画部長として計画が大変遅かったにもかかわらず各区の所（園）長先生はじめ、スタッフの先生方の心強い応援に甘えながら、あつという間の保育まつりでした。従来の全区合同の内容に加え、これからの保育をよりしっかりしたものにしていくためにも、私たち保育者の姿勢とその願い、五十周年の感謝を込め、又、東日本大震災への復興支援の一助に

の充足感を持たせ得なかった働き方があるのではないかと思う。

突然、外国の例を持ち出して恐縮だが、スウェーデン人は、清潔で勤勉・能率的で決りを守る北欧の日本人と言われるそうである。

専業主婦率二%、M型カーブ現象は存在しない。しかし、(子どもの人生が母親の健康・安全そして幸福に決定的に依存している)ことが、国民の合意として制度化され、きまりを守る国民性として夕食は5時半頃、家族と共にという生活が当然とされている。日没の早い国と比較するなどという方もいるだろう。しかし、超勤手当の税率が倍になるというのは子どもの幸せを最優先とする大人の責任が明確に示されているからではないか。

手を携えて北九州の保育を創造してきた行政の苦渋の決断であろうことも理解したい。しかし、最低基準を地方に委ねられた現在だからこそ、この北九州で労働力確保よりも子どもの利益を最優先する都市であることを全国に向けて発信して貰いたいのである。

日本保育学会報一五四号の秋田喜代美会長のメッセージに、子ども・子育て新システムの議論や法案が使用している「保育」の語と保育学会が魂として大事にして来た「保育」の語の意味内容は明らかに違っている」とある。子どもの今をもっとよく知る我々実践者が強力に保育の重要性について社会に向けて発信する必要を痛感している。

藤岡 佐規子



との想いも込めて力いっぱいさせて頂きました。駐車場、警備等陰で支えて下さったスタッフの先生方、各コーナーで精一杯子どもたちの笑顔を膨らませて下さった先生方、会場、警備はじめ事務局の皆様にも重ね重ねご協力に對し深謝申し上げます。

私にとりましてこの五十周年の記念事業に参画させていただくことができたことを唯々有難く思っています。私自身、恐れ多くも保育所連盟の歴史を語ることはできませんが、北九州市保育研修大会に参加させて頂く度に歴史の重みを感じ、先徳の言葉であります「継続は力なり、保育は力なり」を、回を重ねるごとに初心に帰るかみしめております。初代会長であります西村法昭先生の、これからの保育、若い保育者へ語られる熱い励ましのお



言葉には勇気づけられました。そして多くの先生方のご指導により今日まで微力ながら務めてこられたことを想うとき、保育所の役目は奥が深く喜びも悲しみも私たち保育者の心の有り様、愛情溢れる保育実践にあると思います。その実践がくり返され、研鑽と見直し積み重ねられていく中で、私たち保育者の絆と一味和合の心が北九州市保育所連盟という大きな組織となつて今日まで輝き続け社会に貢献している証であると思います。また、その基礎として、一九九二年第三十回大会の折に制定されました北九州市保育所連盟基本方針は、私たち全員のゆるぎない保育に打ち込む姿勢として今に受け継がれています。今一度読み返し、振り返り先徳に敬意と感謝の気持ちで一杯になります。

今回の保育まつりを企画担当する中で、多くのことを学ばせて頂き、今の自分がどれだけ勉強不足で怠慢であるかを痛感しています。幸いにも、各区の支部長様はじめ、保育

士会長様、青年部長様そして会員の皆様のご協力と結束力により保育所連盟の行事一つ一つができていくことを実感せずにはいられません。

「保育まつり2012子どもは未来の支えですー育つ・育てる・育ちあうー」この言葉の大切さ、北九州市内認可保育所(園)の素晴らしいさは、会場一杯のお客様、子どもたちに元気な笑顔と共に共感と喜びをもたらしてくれたことと思います。本当にありがとうございます。

子育て日本一を実感できるまち北九州市に又一步前進できたように感じます。北九州市の保育行政と北九州市保育所連盟が車の両輪のごとく、正しくつながら進んでいくことの重要性を考えると、五十年という大きな節目は言葉に言い尽くせないほどのご苦労があったことと存じます。今までのように先達の方々が作り上げてこられた歴史に甘えることなく、これからの一步を踏み出さねばならない時だと思えます。

子どもたちの未来を真剣に考えることは、私たち大人に課せられた最も大きな責務です。急速な少子化の中で保育所(園)の運営も様々な形態が求められていますが、北九州市の恵まれた環境を活かし、社会福祉法人の社会的役割を再確認し、福祉の増進のために研鑽を重ね、子どもたちの笑顔があふれ、家族の絆を柱に、地域社会の絆へと広がっていく社会の構築のため貢献していきたいと願いを新たにしています。

『二人に』

三脚さん



好評連載の「二人三脚」第4回目

は、戸畑区支部長の内田リツ子先生、同保育士会会長の望月孝子先生に、平成二十四年八月、それぞれの保育園にて保育北九州編集委員がお話を伺ったものを編集して掲載いたします。

聞き手・「保育北九州」編集委員

(以下・編集)

話し手・千防保育所

所長 内田リツ子 (以下・内田)

話し手・さかい川保育園

園長 望月 孝子 (以下・望月)

(編集) 最初の質問です。保育の仕事に就かれたきっかけを教えてください。

下下さい。

(内田) きっかけは単純です。親戚がお寺と保育園をしていたので、



内田 リツ子 支部長

ファイルNo.4
戸畑支部

望月 孝子 保育士会長

親のしいたレールに素直に従いました。小倉北区、南区の二園の保育園を経て、千防保育所が三園目で、戸畑に来て今年で十六年目になります。

(編集)

大先輩なのに、私達に気軽に話しかけて頂き、とても親しみを感じています。いつもお元気ですね。その元気のパワーの源はどこからくるのでしょうか。

(内田) 趣味が仕事です。(笑) 子どもが大好き。子どもからパワーをもらっています。休み明けは、家事などをこなして身体に気だるさが残っていても、職場に着くとパツと元気になります。私は保育という仕事に向いているのだと思います。

ます。かえって家にいるほうが面白くないし、つまらないです。主人からは忙しい人だね、と言われ、保護者からはいつも元気ですね、と声をかけられます。私は、くよくよしないし、悩まないからいつも元気です。悩まないのでしょうね。全てがプラス思考です。何でも良い方に考えるので、自然に良い方向に進むものです。不思議ですけどね。

(望月) 小さい頃から近所の子とも達と良く遊んでいました。家に子ども達が来ることも多く、世話をしていたこともあったのです。ほんとに子ども達が好きでしたね。それで、この道を選んだと思います。

(編集) かつて望月先生とは同じ園に在籍させていただいておりました。その折に、主任と園長ということで大変お世話になりました。望月先生は子どもの泣き声が聞こえてくると、すぐにとんで行ってあやしておられましたね。積極的な子どもと触れあおうとする姿をよく目にしました。

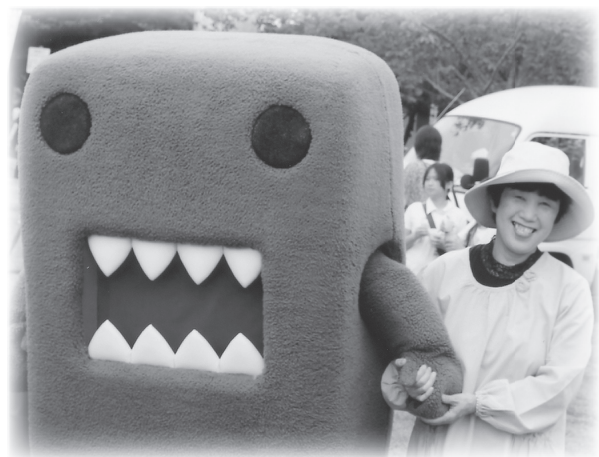
(望月) 今でも子ども達の笑顔を見ると嬉しくなるし、元気ももらっています。

(編集) プライベートな話ですが、休日はどうのように過ごしていますか？

(内田) 休日は、家事が済んだら一人で農事センターや平田ナセリーなどに花を見に行きます。その他にも主人とは、よく食事に出かけますね。それから海外旅行にも行ってみたいですね。でも、仕事を長期休んでまでは行けませんね。

(望月) 子ども達が小さい頃は、お弁当を作って良く出かけていました。今は子ども達が孫達を連れて遊びに来てくれるのでとても賑やかなのです。





ゆっくり出来る日はテレビを見て過ごしています。ニュースやスポーツ番組をよく見ます。中学生の時、バレーボールをしていたのでやはり好きですね。あとは、ドキュメンタリーや苦労話も見ます。必ず、その人達の言葉やメッセージがあり、それを聞くのが大好きです。今は、もう終わった番組もありますが「波乱万丈」「ソロモン流」「ガイアの夜明け」等を良く見えます。

(編集) 趣味などがあればお聞かせ下さい。

(内田) 趣味は、ガーデニングです。百両、千両、万両など、名前が面白いから並べて植えて眺めています。変わった名前の花や茶花など、欲しいと思ったらどこまでも探しに行きます。「ほととぎす」や「紫式部」など、面白い名前に興味があります。

(望月) 別になのですが、しいていえば料理です。田舎料理なのですが……。子や孫まで皆が集まると十人以上になりますが、「美味しい」と言って食べてくれることが嬉しいですね。田舎に住んでいましたが、来客の時は父がメニューを決め、買出し・料理とすべて家族全員で手分けして作ってもてなしていましたので、自然に身につけているのだと思います。大地の恵を頂いて育った食材(四季折々)を使って作るのが好きですし、孫や園の子ども達にも伝えていきたいと思っています。

(編集) プチ自慢はありますか？

(内田) 意外でしょうが几帳面です。整理整頓されてないと嫌です。本棚の本はきちんと並んでないと気が済みません。部屋はゴミひとつないし、キッ

チンでは、一つも出しっぱなしにしません。そうは見えないでしょう(笑)

(望月) 実家は兼業農家でしたので、家族で田・畑・山の仕事を頑張ったり、一段落したら遊びに行ったりしていました。昔は手作業でしたが、あつという間に機械化していきました。その中で頑張ること、汗を流すこと、その中に喜びや楽しみがあることを学びました。汗を流す事も平気ですし、畑仕事や大工仕事も大好きです。健康に気をつけていることはありませんか？

(内田) 身体に良い食べ物、何でもすぐに飛びつき、試しています。健康についての関心は高いです。身体に悪い物は食べません。チョコレートやチーズ、ケーキが大好きですが只今控中です。また、トマトが大好物で、毎日、夕食時3、4個は食べます。トマトは季節の物なので、冬は食べられません。365日、毎日食べる物は、黒酢と納豆とヨーグルトです。私の健康の三原則です。

(望月) 和菓子が好きですが、食べ過ぎないように気をつけてい

ます。それに、酢を使った料理を食べるようにしています。ジムにも行きたいと思っています。ジムにも行きたいと思っ間をつくる事が出来ません。

(編集) 最後に、座右の銘を教えてください。

(内田) 「みんなちがってみんないい。」この言葉はとても好きで、皆それぞれが良い所をもっている、と思います。

(望月) 「努力」昔は、良く悩んだ事もありましたが、今は何事にも前向きです。

(編集) 気さくで太陽のように明るく、トークが上手な支部長、穏やかで優しい雰囲気になれた保育士会長、これからもお二人で戸畑支部を支えてくださるでしょう。本日はありがとうございました。

北九州市保育所連盟
(北九州市私立保育園連盟へ) 寄付
北九州市保育士会

若松区 日吉保育園 園長 伊高繁男 様より 前園長 伊高公一郎 様のご逝去に伴い、保育事業発展のため多額のご芳志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げますと共に心からご冥福をお祈り申し上げます。

研修報告

保育まつり2012

六月三十日 保育まつりが小倉北区のメディアドームで開催されました。北九州市保育所連盟の結成五十周年を記念し、市内の認可保育園（所）が一丸となり取り組んだ大イベントです。ドーム内には特設ステージが設置され、その周りには東日本大震災復興を目的とした写真の展示、被災地からの出店ブースなどが設けられました。また、各区が意見を出し合い準備した「お祭り」「手作り」「おえかき」「あそび」の4つのあそびのコーナーも設置されました。

オープニングは、光沢寺第二保育園の園児による和太鼓の演奏です。子ども達の真剣な表情と一糸乱れぬ太鼓の音に、記念すべき保育まつりが始まるのだと緊張の思いが高まりました。

開会挨拶、緊急アピールの後、テレビでお馴染みの体操の「ひろみちお兄さん」の登場です。お兄さんの軽快な話と動きに、子どもたちはもちろんお父さんお母さん達も引き込まれ、汗をかきつつ楽しそうに親子で体を動かしていました。また、元保育士の男性二人組「ロケットくれよん」のステージも行われ、ユーモアあるおしゃべりや音楽に、再び会場内は多くの笑顔でいっぱいでした。

あいにくの雨模様の天気でしたが、開催場所がドームということもあって、常にどのコーナーも大勢の子どもで溢れかえるほどの大盛況でした。

約六千人の来場者があり、改めて北九州市保育所連盟の底力を感じた素晴らしい保育まつりになりました。

れんげの花保育園

吉永 稔子

相談員研修会

日時：平成二十四年八月二十日（月）
場所：門司港ホテル



講師：神奈川県立保健福祉大学

顧問 山崎美貴子先生

事例発表者

小倉南区 きくが丘保育園 主任保育士 竹川佳世子先生
若松区 二島保育所 所長 坂田 里美先生

研修当日は天候もよく、また素敵な環境の門司港ホテルで、あつた山崎先生の講義が受けられるということとで心を弾ませながら参加しました。

前半に事例発表があり、その後事例についてのグループ討議、後半は山崎先生の「事例検討の意義と進め方を学ぶ」を演題に講義をしていただきました。グループ討議では事例内容にあわせての各々の園でのエピソードやたくさんの方々の考え方等も聞くことが出来、人それぞれの、感じ方があるのだということあらためて自分の中で確認できました。山崎先生の講義は「何故、事例検討をするのか？」との問いかけにより始まりました。事例を提供する側、検討する側、それぞれに思いがあるということ、事例検討の進め方の工夫によっても様々な考え方にいたること等、また、提出事例の問題を見出し、気づくことに焦点をあてると言う言葉がとても強く心に残りました。これから、相談を受ける側として

の心得・心構えをしつかりと学ぶことができました。ありがとうございました。

つばさ保育園

神 しのぶ

第60回九州保育事業研究大会

七月十二日（木）から十三日（金）に別府市で開催された九州保育事業研究大会に参加させて頂きました。

一日目は「配慮を要する子どもの保育の充実」というテーマの分科会に参加しました。意見発表園の取り組みを聞き、他県の先生方と情報交換をする中で、北九州市は専門機関との連携が密に取られており、配慮を要する子どもに対する支援が非常に充実している事を改めて認識する事ができました。今後も、一人一人の困り感に寄り添う保育の実践をしていきたいと思います。

保育士会セミナーの講演会では筑波大学安梅勲江教授が「子どもの育ちと保育者の関わり」というテーマで講義されました。その中で根拠に基づく支援の大切さについて学ぶ事ができました。

二日目は、九州アフリカンサファリ獣医師神田岳委氏から「どうぶつと共に生きる」というテーマで記念講演



がありました。子ども達に本物を見せ、想像力を養って欲しいという言葉がとても印象的でした。

今回の大会に参加させて頂き、北九州市は充実した研修体系と、専門機関との密な連携で保育士自身が多くの学べる環境であることを痛感させられました。一人一人の子どもの思いを受け止め、寄り添う保育について学び、日々の保育に努めていきたいと思います。

楠橋保育所

田代 和代

第20回県保協保育士会研修研究大会

九月五日に西鉄ソラリアホテルで「第二十三（三十八）福岡県保育協議会保育士研修研究大会」が開催され、出席しました。

午前中は、福岡県・福岡市・北九州市の三ヶ所の保育園から「子どもの育ちを支える―激変する家族・社会・制度の中で―」というテーマで実践発表がありました。どの園も社会情勢を考えながら、様々な工夫をし、保育士・調理員・保護者等との連携が上手くなされていると感じました。

午後からは、九社連保協協議会保育士会会長の北野久美先生より、基調報告がありました。その中で、発信と受信の大切さをお聞きしました。受信の中で、国や世界の流れを把握し、制度や背景を理解することや発信の中では、保育の内容が分からないとすることで、保育の仕事と言語化し、広く理解を深めてもらうことが必要だと感じました。

記念講演では、保育領域の専門性の確立をめざしてと題し、神戸大学大学院教授の北野幸子先生の講演がありました。保育士の資質と専門性の事を学びました。資質とは、「子どもへの愛・人権意識・保育への愛・共に学ぶ姿勢」であり、人に関わる仕事として前提にあるもので、専門性とは「知識・技術・活用力（応用力）」で、保育者に求められていることである。そのことを踏まえるとPDCAの大切さを改めて感じました。

根拠に基づいた実践（EBP）のお話の中で、「保育の質の鍵をにぎるのは保育者です」との言葉に、日々の保育の見直しの大切さを改めて考える貴重な研修となりました。

双葉保育園

楠之木 佳枝

各支部名物

門司支部

門司支部には、二十三年間受け継がれてきた保育士会の季刊誌があります。昭和五十四年六月三〇日に当時の門司支部保育士会長岸上美智子先生が創刊号を発行され、以後、歴代の保育士会長に受け継がれ、現在では第134号が発行されました。第一号のややセピア色になりつつある表紙には、現在と全く同じ肉厚にレタリングされた「へへのへのもへじ」の題字がくっきりと残っています。この名前の由来は、七文字の中に門司（もじ）という字が含まれているからです。当時、創刊号の編集会議が開かれた際、表紙の絵と題字の案を各園より募集し、その中から選択された「へへのへのもへじ」が誕生しました。表紙は年度で変わりますが、どれも力作で素晴らしい素敵なものばかりです。この冊子を開くと、まず目次があります。

内容は、前年度の反省をふまえ、編集委員によって更に検討を重ねられ決定していきます。「自然マメ知

【創刊号の目次】

はじめに
保母会だより発刊によせて
零一才児部会報告
私のひとりごと
二才児部会報告
保母の旬日記
三才児部会報告
つぶやき
四才児部会報告
五才児部会報告
TEA TIME
給食部会報告
おはなししまししょう～うたのページ
障害児部会報告
制度委員会報告
編集経過

【100号の目次】

100号記念誌に寄せて
教養講座
川柳
わらべうた
自然豆知識
楽しいあそび
〇〇先生のエピソード
耳より情報
子どものつぶやき
食
編集後記

【134号の目次】

公開保育
本紹介
楽しいあそび
作ってみました
子どものつぶやき
おばあちゃんの知恵袋
耳より情報
食
楽しい行事
編集後記



識」「昔あそび」「楽しいあそび」では、保育のヒントやあそびの工夫に繋がりました。「〇〇先生のエピソード」では、思わず吹き出してしまつ話に、その先生への親しみを持つきっかけになりました。「教養講座」は含蓄ある文章に感銘をつけ、

「耳より情報」「おばあちゃんの知恵袋」では、知らなかった情報や生活の知恵を教えてください、得した気分になります。

記念すべき「へへのへのもへじ」第100号。平成十六年二月一日発行には、現保育士会副会長の花かこ保育園

中村尋子園長先生をはじめ、創刊号に携わった先生方から祝辞が寄せられていました。当時は、「編集会議や印刷は時間内に終了することとはほとんどなかった。」時には印刷機が故障し、原稿が足りなかったり多くの時間と労力を要したなど、様々なエピソードがあったことを知りました。又、一時は発行が危ぶまれたこ

ともあったようですが、今では多くの方に読んでいただいております。

平成十三年八月には、当時、門司支部保育士会会長 中村尋子先生が、元副会長 米谷康代先生、野田綾子先生の協力を得て「つぶやき集」を発行されました。

創刊号からすべてを保管されている萩ヶ丘保育園の主任保育士黒瀬照子先生と白野江保育園の園長藤富孝雄先生のお陰で本稿が書けましたことを感謝するとともに、広済寺保育園の園長先生のご厚意により、編集会議や印刷など、当初からお世話になっていることもお伝えしたいと思います。

創刊号から一つ一つ目を通していくと、記事の内容に引き込まれてきました。『継続は力である』こと痛感し、又、物を大切にすることを学びました。門司支部の歴史が刻まれている「へへのへのもへじ」は今後もその時々々の出来事や保育情報を掲載し、会員に愛読される季刊誌として、各保育園・保育所へ運ばれていくでしょう。そして、またみんなの活力と親睦の輪となることにちがいありません。



雑感 「夏の思い出」

夏も終わりになるころ、四国に旅しました。私たち家族の旅は、いつもノープラン。新しい発見にわくわくしながらの旅になるのですが時には、泊るところがなくて、青くなることもありですが、また、それも楽しみのひとつです。

今回は、前日、「四国に行ってみようか」で話が決まり行くことになりました。私にとっては、初めての四国。「しまなみ海道」を渡るときは、橋の美しさ、海の雄大さ、自然の創り出す、景色に目を奪われました。初めての四国に胸がドキドキワクワク、期待に胸ふくらませての旅となりました。

まずは、「坂本竜馬で有名な桂浜」、「日本一きれいな川百選に選ばれた四万十川」を目指しました。桂浜では、しばらく立ち止まり、波の音に耳を澄ました。海で育った私には、故郷に帰ったようなつかしい響きでした。一緒に行った家族は、50年前にも来たとのことで、景色のあまりの変りように驚いていました。「ここには、たくさんきれいな石があったけどね……」今は、砂浜になっていました。訪れた記念に売店で、石を買うことにしました。その石を売っていたおじさんの話によると、小さいころは、確かに大きなきれいな石（五色石）がたくさんあったが、近くの海の工事の関係で流れが変わったのか石が全然なくな

り、自分たちも海の沖まで行き潜って取ってきているとのことでした。昔を懐かしむおじさんの声と、家族の「50年後どうなっているのかね？この景色は？」といった言葉が妙に心に響きました。

四万十川は、前日雨が降り少し濁っていましたが、それでも青く美しい姿を見せてくれました。この川には、豪雨時、橋が流されないようにと造られた橋げたのない沈下橋がかけられています。先人が自然と共存しながら工夫をして生きてきた姿がそこにあります。橋を渡り、川の流域で生活してきた方々の苦勞や暮らしに思いを馳せました。

今回の旅は、海、山、川、の自然の雄大さと時の移ろいを感じるものでした。また、「ドキドキワクワクした体験」が、生活に活力を与え、明日への生きていく力につながることを、改めて感じました。今まで、わが子、保育所の子ども達にどのくらい、ドキドキワクワクの体験をさせてきたのか、と振り返ることができた旅でもありました。海山川の自然の持つ偉大な力を感じ、この、自然を未来の子ども達のためにもぜひ残していかなければいけないと強く感じました。

古前保育所
萩野 いくの

編集後記 ——座談会

過日、保育所連盟50周年記念座談会があり記録係の一人として参加させてもらった。歴代の北九州市保連会長を始めとして私保連会長や保育士会長、それに保育課OBら10名と、司会を合わせて11名のみなさん方のお話を興味深く聞かせていただいた。話の内容もさることながら、座談会に参加されているみなさん方の、楽しげな表情が印象深かった。座談会の中でも出てくるのだが、草創期の頃は、子どもたちのために、と皆必死で今日の保育制度を作ってこられたのだ。その過程で議論を戦わせ、大いなる壁には力を合わせて挑んでこられたとお聞かせいただいた。どんなに仲良くしようとも、こと、子どもの問題に関しては真剣に意見をぶつけ合っておられたようだ。その皆さんが、一堂に会して歴史を語るのは、それをこれから北九州市の保育を担っていくわれわれ後進に伝えんが為であることに気づかされた。50周年記念座談会はバトンなのだと思う。次の座談会で、われわれは何をバトンに託して伝えるのか、あらためて問われているだろう。

「保育北九州」編集長 日野 真人